

第1章 広島市国保の現状

1 広島市国保の被保険者の状況

(1) 広島市国保の被保険者数

経年的に見ると、広島市の被保険者数は減少しています。

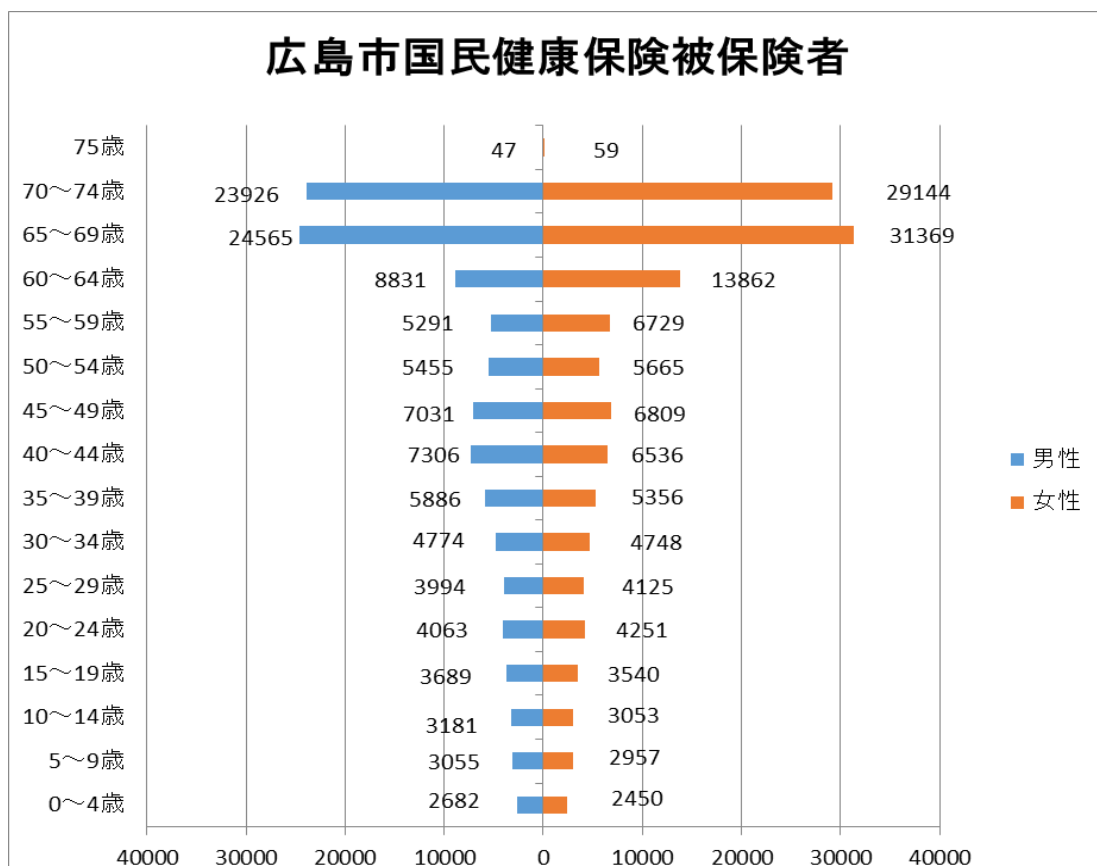
区 分	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
		対前年 増 減		対前年 増 減		対前年 増 減
被保険者数	人	%	人	%	人	%
	268,090	▲3.2	259,056	▲3.4	244,429	▲5.6
一般被保険者数	258,011	▲1.7	252,586	▲2.1	241,053	▲4.6
退職被保険者数	10,079	▲30.5	6,470	▲35.8	3,376	▲47.8
介護保険第2号被保険者数	83,711	▲7.2	78,882	▲5.8	73,150	▲7.3

※ 各年度末現在の被保険者数である。

※ 介護保険第2号被保険者数は、40歳以上65歳未満の被保険者数である。

(2) 広島市国保の被保険者の年齢構成

平成28年度の広島市国保の被保険者を年齢別に見ると、65歳以上が44.5%を占めています。



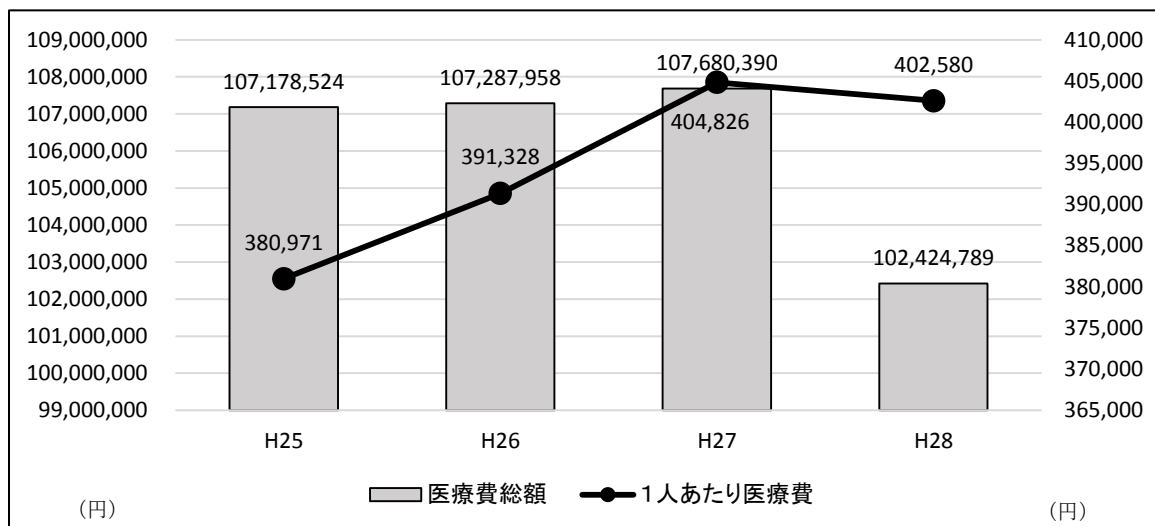
平成29年3月末時点

2 広島市国保の医療費の状況

(1) 広島市国保の医療費総額と1人あたり医療費の状況

平成28年度の広島市国保の医療費総額は、約1,024億円でした。

平成27年度まで医療費総額と1人あたり医療費は増加傾向にありましたが、平成28年度は減少に転じています。



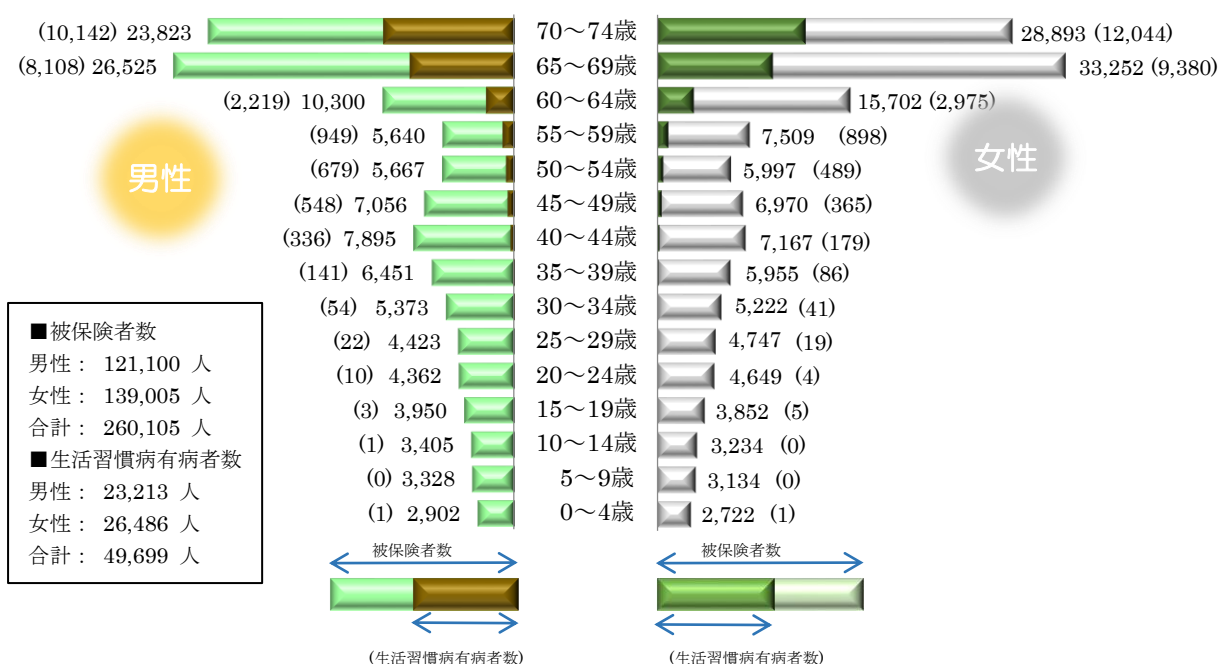
平成28年度国民健康保険事業特別会計決算説明資料

(2) 年齢階層別被保険者数と生活習慣病有病者数

被保険者のうち、生活習慣病有病者は約20%を占めています。

生活習慣病の有病者数は40、50歳代から増え始めます。

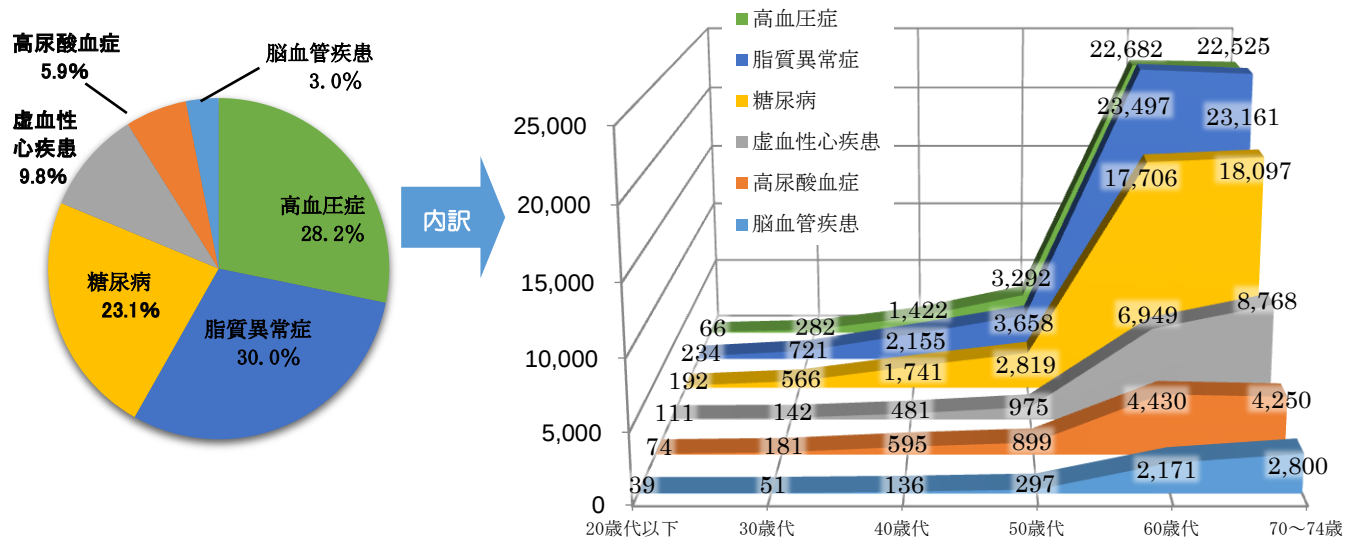
また、50歳代でその年代に占める割合が約12%であったものが、60歳代で約26%、70歳代では約43%を占めています。



出典：広島県国民健康保険団体連合会平成28年度版我がまちの健康な暮らしを考える生活習慣病ハンドブック(平成28年6月1日現在 平成28年5月医科診療分主病のみ)

(3) 年齢別に見た生活習慣病の疾病数

生活習慣病の中で最も多かったのは脂質異常症で、次いで高血圧症となっています。
50 歳から 60 歳の間に、生活習慣病は急増します。



区分	被保険者数	レセプト 件数	生活習慣病 レセプト件数	生活習慣病レセプトに占める割合(主病・副病)					
				高血圧症	脂質異常症	糖尿病	虚血性心疾患	高尿酸血症	脳血管疾患
20歳代以下	44,708	18,688	550	66	234	192	111	74	39
割合	—	—	2.9%	12.0%	42.5%	34.9%	20.2%	13.5%	7.1%
30代	23,001	9,463	1,242	282	721	566	142	181	51
割合	—	—	13.1%	22.7%	58.1%	45.6%	11.4%	14.6%	4.1%
40代	29,088	14,045	3,804	1,422	2,155	1,741	481	595	136
割合	—	—	27.1%	37.4%	56.7%	45.8%	12.6%	15.6%	3.6%
50代	24,813	14,718	6,345	3,292	3,658	2,819	975	899	297
割合	—	—	43.1%	51.9%	57.7%	44.4%	15.4%	14.2%	4.7%
60代	85,779	72,201	38,339	22,682	23,497	17,706	6,949	4,430	2,171
割合	—	—	53.1%	59.2%	61.3%	46.2%	18.1%	11.6%	5.7%
70~74歳	52,716	69,874	37,641	22,525	23,161	18,097	8,768	4,250	2,800
割合	—	—	53.9%	59.8%	61.5%	48.1%	23.3%	11.3%	7.4%
合計	260,105	198,989	87,921	50,269	53,426	41,121	17,426	10,429	5,494
割合	—	—	44.2%	57.2%	60.8%	46.8%	19.8%	11.9%	6.2%

出典：広島県国民健康保険団体連合会平成 28 年度版我がまちの健康な暮らしを考える生活習慣病
ハンドブック(平成 28 年 5 月医科診療分 被保険者数は平成 28 年 6 月 1 日現在)

(4) 生活習慣病の診療費の年次推移（5月医科診療分 主病のみ）

主な生活習慣病（高血圧症、脂質異常症、糖尿病、虚血性心疾患、脳血管疾患）のレセプト件数と診療費の年次推移を示しています。

高血圧症、脂質異常症、糖尿病における診療費は減少傾向にあり、それに伴って虚血性心疾患・脳血管疾患のレセプト件数も減少傾向にあります。

高尿酸血症に関しては横ばいの推移であり、痛風や腎不全の疾病数の推移を確認し、予防に対する取組みを行う必要があります。

